

令和7年度 第3回社会教育委員会会議録

日時 令和8年1月28日（水）13時30分から15時15分

場所 市役所4階 入札室大

委員	委員長	松尾 弥生
	副委員長	高瀬 由美
	委員	田中 亨胤
	委員	谷勝 公代
	委員	中村 和子
	委員	河合 新一
	委員	石野 晴美
	委員	橋尾 恵美
事務局	教育長	菅野 恭介
	教育部長	伊藤 勝
	生涯学習課 課長	北島 悦乃
	生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
	生涯学習課 職員	藤井 優佳

1. 開会（事務局）

2. 教育長あいさつ（教育長）

～教育長よりあいさつ～

3. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

・本日の主たる議題である「第4期加西市教育振興基本計画」の答申については、これまで何度も話し合ってきたところになるので、本日は最終的な確認になるのかなと思います。委員の務めとして責任を持って答申を行えるよう、活発な意見交換をお願いいたします。

・また、本日は学校再編や部活動の地域展開に関するアンケート結果を資料としてご用意いただいています。社会教育委員としてこれらを正しく把握することが必要だと思いますので、今日はそのお話を聞いていきたいと思っています。

4. 議題

（1）「第4期加西市教育振興基本計画」の答申について

～事務局から説明～

(A 委員)

・仕事を離れて学び直して職場に戻る「リカレント教育」と、近年広まった「リスキリング」の概念を整理して使っていますか。

・「廃校」という言葉は捨てられたという寂しいイメージがあります。また、「空き教室」は、兵庫県でも使われている「余剰施設」といった地域に還元していく前向きな言葉も検討をしてください。

・人生100年時代を「たくましく」生きるという表現が直線的なので、たとえば、「しなやかに」といった、より幅のある表現の方が親しみやすいのではないのでしょうか。

(B 委員)

・「リカレント」という言葉について、策定審議会で言葉の意味合いと、ここに使うのは良くないかなという話がありましたが、就業している人たち、就業を目指している人たちも含めての学び直しという意味で入れてほしいと私がお願いしました。

(C 委員)

・「リカレント教育」というところには女性がすごく参加してくれています。「リスキリング」に関しては、北播磨の女性のリーダー養成においてすごく良い感じに進んでいます。これらは非常に重要で、生涯学習において大切にしたい言葉ですので、施策の方向性にだけでも入れてもらえるのであればいいのではないかと思います。

・虐待やヤングケアラー等の社会課題に対しては「学び」と「支援」という言葉が出てくると思います。「学び」を生涯学習部局が「支援」を福祉部局が担って、人を繋ぐ体制が重要です。

・縦軸に世代、横軸に社会課題というマトリックスで捉えて頭の中で整理が出来ていないと生涯学習全般を考えることができないと思っています。また、生涯学習課だけは狭い範囲のことしかできないので、男女共同参画や人権、多文化共生といった他部局と連携して取り組むべきだと思います。

・公民館は市民に非常に近い場であり、そこを生涯学習課が所管しています。それを他部局の課題解決のための学びの場として積極的に開放・活用すべきではないかと思っています。

・生涯学習課長を行政職が担っていることが多くなりました。それは、他部局と上手く連携するためだと思いますので、そのあたりの意味を考えてほしいなと思っています。

(B 委員)

・加古川の両荘みらい学園では、学校の学習と公民館の講座を一緒にしているような例を聞きます。これから加西市も学校再編が進んでいきますので、将来的にそういう連携もできればいいなと思います。

(A 委員)

・書ききれないですが、そういう含みが込められていると受け止めています。

(委員長)

- ・では、本日の会議をもって最終的な答申をお願いしたいと思います。

5. 報告事項

(1) 学校再編事業の進捗について

～事務局から説明～

(A 委員)

- ・泉小学校の校章について、イギリスでは、幼稚園の教育と小学校の教育は輪切りではなくて繋がっているという考え方で「プライマリー」という言葉を使っています。アメリカの「エレメンタリー」も間違いではないですが、過去に戻っているかなという感じがしなくもないです。どちらも素晴らしい校章だと思います。
- ・校歌もどのようなものができるのか楽しみですが、作成にあたっては寂しい思いをする人がいないよう 120%の配慮をしてほしいと思います。

(C 委員)

- ・加東市の子たちを見ていても、小規模校から大規模校へ移る際、自分が好きだった先生がいなくなるのが寂しいと言っています。小さい学校の子ほど、環境の変化でストレスを感じ、不登校傾向が強まりやすいかなと思っています。こまめなアンケート調査を実施するべきだと思います。
- ・支援を待つだけでなく、子ども自身がストレスを感じた際にどうやって発散するかという対処法を学ぶことも大事だと思います。いつまでも支援を受けられるわけではないので。
- ・「集まった」ではなく、高学年の児童などが「新しい学校を作る」のだという気持ちを持ってくれたらすごく良い力になっていくのではないかと思います。

(A 委員)

- ・社会教育委員として開校後の新しい学校を実際に見学し、学校教育と社会教育の理解を深める機会を設けてもらえたらと思います。

(2) 社会教育関係団体の活動状況について

～事務局から説明～

(A 委員)

- ・お金のことは難しいところもありますが、個人の懐に入れているわけではないので問題ないのではないのでしょうかね。

(3) 活動の地域展開に関するアンケート結果

(C 委員)

- ・保護者の方とお話していると、地域移行によってお金が発生する場合、「活動ができなくなるのか」というお金の不安が非常に大きいようです。
- ・部活動はスクールセクハラが発生しやすい場でもあり、指導者が一般のコーチや

監督に代わることで、さらにそのリスクが高まるのではないかという懸念があると思います。また、その場合は教育委員会の所管外となるため、責任の所在や指導者へのガバナンスが効かなくなるのではないのでしょうか。

(D 委員)

・現在の中学1年生が卒業するまでは現状が維持されるとの説明はあるものの、その後の体制が全く不透明であるため、保護者は活動自体がゼロになるのではないかという強い不安を抱いています。また、部活動は学校に行くためのモチベーションになっていると思いますので、それが失われることの不安があります。加西市としては何とか継続する形で進めてほしいと思います。

6. 閉会（副委員長）

・学校と地域の連携というところについては、一番気になるところですし、社会教育の大きな柱です。

・できることとできないことがあると思いますが、学校の見学や学校再編に伴って生じる余剰施設の今後の活用方法についても、議題に上がってくるのかなと思います。

・本日の内容について、会議のあとでも気づいたことがありましたら、事務局にご意見をいただけたらと思います。